

(3) 身近な水環境の全国一斉調査

1) 身近な水環境の全国一斉調査とは

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。しかし、当初は調査の方法、項目の不統一、測定精度が保証されないなどの問題点があり、市民調査の有効活用は難しい状況であった。

統一的な調査マニュアルが作成され、これに基づいた一斉調査として「身近な水環境の全国一斉調査」が実施されるようになったのは平成16年からであり、その後毎年、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

2) 調査のまとめ

令和4年の調査の概要は以下のとおりである。

表- 28 身近な水環境の全国一斉調査の概要

	全国統一日に 実施された調査	国内で実施された 全ての調査	備考
調査日	令和4年6月5日(日) を中心に実施	令和4年5月22日 ～7月1日	—
参加団体数	339団体 (個人参加含む)	660団体	令和3年は 655団体
調査地点数	2,035地点	5,183地点	令和3年は 5,507地点

令和4年は、まだ新型コロナの感染状況が収束は見えていないが、一般の方々の感染予防対策を行いながらの行動が定着してきたことを鑑みて従来の「全国一斉調査」に戻して実施した。結果、統一日には随分とコロナ以前の数字に近づくことが出来た。しかし、多くの参加団体からはまだまだ予断を許さないために「子供の参加は控えた」や「大人のみで定点の水質調査を早く行った」などのコメントもあり、子どもたちへの感染配慮が依然としてあった。

全国の水質調査の結果は、COD0～3mg/L未満の地点が39%、3～6mg/L未満の地点が42%、6mg/L以上の地点が19%という結果となった。

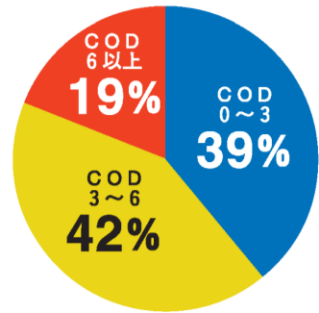
令和4年の全国水環境マップを図- 26に示す。

2022全国水環境マップ

第19回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



2004全国水環境マップ

第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果
 水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

調査地点数と結果の推移

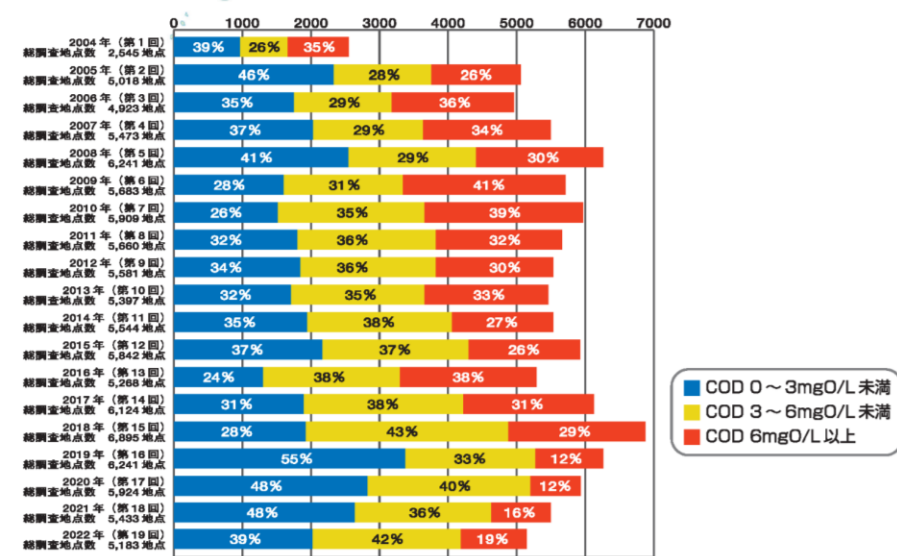


図-26 全国水環境マップ